ＪＣＩ四国支部　２０２１年度事業報告

１．支部幹部会

【第１１回】（2021 年度第 1 回）

日　時：2022 年 1 月 13 日（木）15 時～16 時 40 分

場　所：香川県生コンクリート工業組合（Web 会議）

出席者：支部長，副支部長，幹事 8 名，検査役，研究委員会報告者 2 名，事務局
計 14 名

議　題：12 月末までの収支決算の確認，2022 年度事業計画と事業予算の審議　等

２．支部執行委員会

【第９回】（2021 年度第 1 回）

日　時：2021 年 4 月 23 日（金）15 時～16 時 15 分

場　所：香川県生コンクリート工業組合（Web 会議）

出席者：支部長，副支部長，幹事 9 名，執行委員 8 名，検査役，本部理事
研究委員会報告者 1 名，オブザーバー1 名，事務局
計 24 名

議　題　2020 年度事業報告･収支決算報告，2021 年度事業計画･収支予算最終確認　等

【メール審議①】

- 議題：支部執行委員の交代について（福原力氏 ⇒ 冨田雄一氏）
- 審議期間：2021 年 8 月 2 日
- 審議結果：委員交代が承認された。（8 月 2 日付けで本部へ報告）

【第１０回】（2021 年度第 2 回）

日　時：2021 年 8 月 30 日（月）15 時～17 時

場　所：香川県生コンクリート工業組合（Web 会議）

出席者：支部長，副支部長，幹事 9 名，執行委員 8 名，検査役，本部理事
研究委員会報告者 1 名，オブザーバー1 名，事務局
計 24 名

議　題：2021 年度上半期事業報告･下半期事業予定確認，コンクリートに関する技術情報交換会（仮称）試行および設置について，年次大会 2024 高松の取り組み状況　等

【第１１回】（2021 年度第 3 回）

日　時：2022 年 1 月 31 日（月）15 時～16 時 20 分

場　所：香川県生コンクリート工業組合（Web 会議）

出席者：支部長，幹事 10 名，執行委員 12 名，本部理事，事務局
計 25 名

議　題：12 月末までの収支決算の確認，2022 年度事業計画と事業予算の審議　等

３．支部執行部候補者推薦委員会

【第６回】

日　時：2022 年 1 月 13 日（木）14 時 30 分～14 時 50 分

場　所：香川県生コンクリート工業組合（Web 会議）

出席者：委員長，委員 4 名，オブザーバー1 名，事務局　　計 7 名

議　題：2022 年度支部執行部候補者について

４．内部監査

日　時：2021 年 4 月 20 日（火）

場　所：書面監査

出席者：甲斐支部長，橋本副支部長，堀井検査役，古田出納管理者

５．支部総会

コロナ禍のため，対面式の総会は開催しなかった。なお，第 9 回支部執行委員会承認後に 2020 年度活動報告･収支決算および 2021 年度活動計画案･収支予算案等を総会資料として HP へ掲載し活動内容を周知した。（2021 年 4 月 23 日）

６．研究委員会活動

１）四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会【常設委員会】

委員長：橋本親典（徳島大学）･･･四国支部長担当

（p5，6）HP 掲載の名簿を更新すること。

２）四国の生コン技術力活性化委員会【第５期】【継続】

委員長：島弘（高知工科大学）

（p7，8）

３）材料分離が生じたコンクリート中の鉄筋腐食性状の評価委員会【継続】

委員長：河合慶有（愛媛大学）

（p9～p16）

2022 年 2 月以降の活動実績を確認すること。

７．講演会･講習会など

１）特別講演会

コロナ禍のため開催しなかった。

２）講習会

・四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会活動報告

2020 年度は活動していないので報告会なし。

３）コンクリートに関する技術情報交換会（Web 会議）（p17）

・試行

日　時：2021 年 8 月 30 日（月）

話題１：生コンクリート工場の技術力活性化と労働環境改善等を目的とした生コンクリート工業組合の支援活動報告（年次大会 2020 論文集採択）

報告者：古田 満広（香川県生コンクリート工業組合）

話題２：60 年以上経過した長安口ダムの堤体コンクリート内部から採取したコア供試体の物性値の評価（年次大会 2020 論文集採択）

報告者：橋本 親典（徳島大学大学院）

参加者：24 名

・第 1 回

日　時：2021 年 11 月 17 日（水）15 時 30 分～17 時

話題１：高知県コンクリート診断士会の現状と課題

報告者：原田 隆敏（㈱CDR コンサルタンツ）

話題２：コンクリート工学における AI の活用について

報告者：岡﨑 慎一郎（香川大学）

参加者：30 名

・第 2 回

日　時：2022 年 1 月 26 日（水）15 時 30 分～17 時

話題１：香川県砕石事業協同組合の社内規格の視える化の取り組み

報告者：吉田 幸稔（香川県砕石事業協同組合）

話題２：香川高専社会基盤メンテナンス教育センターの橋梁点検講習会等の活動紹介

報告者：林 和彦（香川高専）

参加者：30 名

４）その他

・第 14 回コンクリート甲子園（p18）

日　時：2021 年 12 月 11 日（土）

場　所：香川県生コンクリート工業組合

主　催：第 14 回コンクリート甲子園実行委員会

後　援：JCI 四国支部　他多数

８．見学会

コロナ禍のため，昨年に引き続き 2 年連続中止。

９．本部関連行事

１）コンクリート診断士試験

日　時：2021 年 10 月 31 日（日）

場　所：高松国際ホテル（高松市木太町 2191-1）

統括責任者：松島学（香川大学）　　事務責任者：古田満広（香川県生コン組合）

監督者：1 名（昨年：1 名）

監督補助者：7 名（昨年：香川大学 7 名）

事務補助者：香川県生コン組合 2 名

試験申込者数：229 名（2020 年の 185 名に対し＋44 名）

全国　合格率：16.0%（576/3611）欠席率：26.8%（1324/4935）

高松　合格率：17.5%（31/177）欠席率：22.7%（52/229）

２）コンクリート技士･主任技士試験

日　時：2021 年 11 月 28 日（日）

場　所：香川大学創造工学部

統括責任者：吉田秀典（香川大学）　　事務責任者：古田満広（香川県生コン組合）

監督者：9 名（昨年：香川大学 9 名）

監督補助者：26 名（昨年：香川大学 24 名）

事務補助者：香川県生コン組合 1 名

試験申込者数：技士 374 名（2020 年の 364 名に対し＋10 名）

（高松）　：主任 198 名（2020 年の 158 名に対し＋40 名）

【技士】全国　合格率：30.6%（2762/9037）欠席率：14.9%（1580/10617）

高松　合格率：28.8%（98/340）欠席率：9.1%（34/374）

【主任】全国　合格率：13.8%（415/3018）欠席率：21.5%（829/3847）

高松　合格率：11.4%（19/166）欠席率：16.2%（32/198）

10. ホームページ運営

JCI 四国支部のホームページを充実する。

11. 会員増強

JCI 会員の増強を図る。

以上

令和３年度 第１回「四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会」
議事録

ＪＣＩ 四 国 支 部
四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会

１．日　時　　令和 3 年 12 月 4 日(土)　15:00～16:55
２．場　所　　Zoom によるリモート会議
３．出席者　　別紙　**資料 1** のとおり
４．配付資料
①令和 3 年度 第 1 回「四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会」出欠一覧
②令和 3 年度「四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会」委員一覧
③コンクリート教育モデル活動校一覧表(2006 年～)
④コンクリート関連企業への就職者数調査（平成 27 年～令和 2 年）
５．令和 2 年度議事録について
・昨年度の本研究委員会議事録について尾嵜幹事長から説明があり，委員の共通理解が図られた。
６．議題
・以下について審議し，次の結果を得た。
（1）委員長挨拶
・3 期ぶりの委員長となる。新任委員の方も出席されているので，本研究委員会設立の経緯について説明がなされた。
（2）近況報告・・・**資料 1**
・1 年ぶりの開催であるため，出席された委員全員から近況報告が行われた。
・新型コロナウイルスの影響がまだ残っているものの，徐々に回復傾向にあり，授業や学校行事が感染対策のもと行われているという報告が多かった。また，今取り組んでいるコンクリート教育に関する活動や本研究委員会の委員交代についてなど，それぞれの委員から近況報告が行われた。
（3）コンクリート教育モデル活動校による活動の中間報告
・昨年度，新型コロナウイルス感染拡大の影響により，今年度にスライドしてモデル活動校となっていた香川県立多度津高等学校の尾嵜教諭から，仮題「本校におけるコンクリート教育」として中間報告が行われた。
・委員からは，骨材としてカキ殻を使用していたことについて，粉砕方法や骨材の試験方法，スランプ試験などのフレッシュコンクリートの試験方法についての質問があった。尾嵜教諭からは，直接担当していないため，担当者に確認して，4 月の総会で報告する旨の回答が得られた。
（4）令和 4 年度コンクリート教育モデル活動校の審議・決定・・・**資料 3**
・令和 4 年度のモデル活動校は，ローテーションにより徳島県の学校になる。徳島県の委員からは，徳島県立つるぎ高等学校が推薦され，本研究委員会において承認された。

今後，来年 1 月のＪＣＩ四国支部の幹部会に本研究委員会から推薦することにした。また，令和5年度のモデル活動校は，ローテーションにより高知県の学校になるので，高知県の委員に次年度の本研究委員会で推薦いただくことを依頼した。

・モデル活動校への支援額について，今年度は 15 万円だったので，次年度も同額をＪＣＩ四国支部に要望することが本研究委員会で承認された。

（5）令和 4 年度 第 15 回コンクリート甲子園への支援について審議

・今まで事務局を担当してきた香川県立多度津高等学校が第 14 回コンクリート甲子園を最後に，事務局を交代することになった。第 15 回からの事務局・会場は現在調整中のため未定である。このことから，本研究委員会からコンクリート甲子園に対しての支援要望は行わないことが承認された。

・これまでコンクリート甲子園に対して行ってきた支援を，今後はコンクリート甲子園の予選に出場する四国内の学校に 10 万円を原資として配分して出場校の活動を支援してはどうかということが提案され，本研究委員会で承認された。今後，来年 1 月のＪＣＩ四国支部の幹部会に要望することにした。

（6）「コンクリート関連企業への就職者数調査」結果報告・・・**資料 4**

・平成 27 年度から令和 2 年度卒業生までの 6 ヵ年間の就職者数を調査し，本研究委員会に報告がされた。結果は就職者 7 名と，ここ 5 年間の平均値程度の人数となった。

・本研究委員会設立の最終の目的はコンクリート関連企業への就職者数増であり，アプローチの方法について協議された。委員からは，生コン工場等へのインターンシップやコンクリートを扱う工事現場の見学会を行うことが有効ではないかという意見があった。このことについて，橋本委員長からＪＣＩ四国支部にも関係者が多数会員登録されているので 1 月のＪＣＩ四国支部の幹部会に提案することになった。

（7）コンクリート教育に関する意見交換

・阿南工業高等専門学校では，徳島県の技術士会の協力で，毎年 90 分の出前授業を 2 学年行っているという報告がされた。香川高等専門学校では，香川県の技術士会の協力で 3 年生を対象に 12 月に出前授業が行われていると報告があった。さらに香川高等専門学校では，ＰＣ建設業協会の協力により，実験や実習を織り交ぜた出前授業があり，学生が興味を持って取り組んでいるという報告もあった。

（8）次回委員会開催日の検討

・委員の移動に対する負担軽減から，次年度も今年度同様に Zoom 会議形式で~~本~~研究委員会を開催することが承認された。日程については，8 月頃で次期幹事長が調整することになった。モデル活動校からの中間報告については，時期的に早いので活動に入っていなければ計画のみを報告をいただくことにした。

（9）その他

・今年度をもって，尾嵜幹事長が退任することになった。令和 4 年度からは高知工業高等専門学校の近藤委員が新幹事長に就任することが本研究委員会で承認された。今後，1 月のＪＣＩ四国支部の幹部会に提案することにした。

（記録　尾嵜秀典）

ＪＣＩ四国支部 四国の生コン技術力活性化委員会【第５期】 委員名簿

１２名

県	区分	氏　　名	所　　属
―	委員長	島　　弘	高知工科大学工学部社会システム工学科
―	幹事長	古田　満広	香川県生コンクリート工業組合
徳島	委　員	橋本　和己	㈲松尾建材
	〃	三島　拓也	樫野石灰工業㈱
香川	〃	新居　宏美	香川県生コンクリート工業組合 技術試験センター
	〃	新居　佑将	香川県生コンクリート工業組合 技術試験センター
愛媛	〃	渡部　善弘	愛媛県生コンクリート工業組合 中予技術センター
	〃	成川　真悟	㈱キクノ
高知	〃	松本　明	㈱ビルドベース中芸生コンクリート
	〃	谷口　恵一	室戸菱光コンクリート（株）
	〃	宮澤　学	高知県生コンクリート工業組合 技術センター東部試験所
	〃	森澤　勝弘	高知県生コンクリート工業組合 技術センター東部試験所

2022.05.10

「四国の生コン技術力活性化委員会【第５期】」2021 年度活動報告

１．委員会の目的

JCI 四国支部では初めての試みとして平成 24 年に「四国の生コン技術力活性化委員会」を設置し，2 年間の活動を経て生コン工場独自の課題に対して 4 県の技術者がそれぞれ実験を行い，論文に取り纏め JCI 年次大会 2014（高松）において発表しました。さらに，本委員会を継続し平成 26 年に第２期委員会を，平成 28 年に第３期委員会を，平成 30 年に第４期委員会を立ち上げそれぞれ 2 年間の活動を行いました。また，研究成果として JCI 年次大会 2016（博多）で 4 編，2018（神戸）で 3 編発表し，2020（広島）に 4 編投稿しすべて採択されました。さらに，１期から３期委員会での研究成果の １ 部を展開し全国生コンクリート工業組合連合会主催の生コン技術大会においても発表することができました。このように，生コン業界自ら提案し JCI 年次大会などの全国規模の大会に投稿，発表することは全国でも稀なケースであり，四国の生コン業界の技術力活性化に一助になったと考えています。なお，技術力の活性化には活動の継続が最も重要と思い，第５期委員会を設置することになりました。趣旨はこれまでの委員会と同じく生コン工場の技術者が主体となって活動し，技術力の活性化を促すことです。

２．委員会活動

本委員会（委員長：島 弘高知工科大学教授）は 2020 年度にスタートした。コロナ禍により 2020 年度，2021 年度はともに 2 回ずつの開催であり，計画どおり取り組むことができなかった。そのため，当初予定していた活動期間 2 年を支部執行委員会の承認を得て 1 年延長することになった。2022 年度は 3～4 回開催する方針であり，第 1 回目を 2022 年 5 月に予定している。主な協議内容等は以下のとおり。

【第３回委員会】

１．日　時　　令和 3 年 7 月 10 日（土）13 時 30 分～16 時 30 分
２．場　所　　香川県生コンクリート工業組合
３．出席者　　13 名（オブザーバー1 名含む）
４．協議内容

- 研究テーマおよび実験計画が報告された。
- 一部のグループについては，実験結果が報告され，追加実験等が協議された。

【第４回委員会】

１．日　時　　令和 3 年 12 月 18 日（土）14 時 00 分～17 時 00 分
２．場　所　　ホテルグランドパレス徳島
３．出席者　　12 名
４．協議内容

- 実験結果が報告され，追加実験等が協議された。
- 年次大会 2022（千葉）への投稿を断念し，本委員会活動の 1 年延長を支部執行委員会に要請する。

以上

材料分離が生じたコンクリート中の鉄筋腐食性状の評価委員会　名簿

役職	氏名	所属
委員長	河合　慶有	愛媛大学大学院
副委員長	中川　裕之	四国総合研究所　土木技術部
委員	井上　博喜	シアテック
	上田　隆雄	徳島大学大学院
	氏家　勲	愛媛大学大学院
	角野　拓真	四国旅客鉄道　工務部工事課
	川谷　泰山	CORE技術研究所　高知営業所
	國土　新彦	四電技術コンサルタント　松山支店土木グループ
	近藤　拓也	高知工業高等専門学校
	高橋　昇一	住鉱物流　販売推進室
	日野　友	愛媛県　土木部土木管理局
	藤井　禎	清水建設　四国支店土木部
	横山　卓哉	キクノ　品質管理部
	篠原　聖治	エイト日本技術開発　四国支社

2021 年度　JCI 四国　材料分離が生じたコンクリート中の鉄筋腐食性状の評価委員会
第 1 回　議事録

■　日時：2021 年 5 月 17 日（月）14：00～16：00
■　場所：オンライン会議
■　出席者：河合委員長，中川副委員長，井上委員，氏家委員，國土委員，篠原委員，高橋委員，日野委員，横山委員
■　資料
・資料 1-0：第 1 回委員会議事次第
・資料 1-1：2020 年度第 2 回　議事録（案）
・資料 1-2-1：愛媛県生コン生産者ヒアリング資料（河合委員長）
・資料 1-2-2：N 社　県発注工事の出荷実績（河合委員長）
・資料 1-3-1：徳島県生コン生産者ヒアリング資料（中川副委員長）
・資料 1-3-2：A 社 CUS コンクリート土木実績（中川副委員長）
・資料 1-3-3：A 社 CUS コンクリート建築実績（中川副委員長）
・資料 1-4-1：高知県生コン生産者ヒアリング資料（近藤委員）
・資料 1-4-2：高知県 CUS コンクリート実績の一部（近藤委員）
・資料 1-4-3：高知県 CUS コンクリート出荷数量推移（近藤委員）
・資料 1-5：四国 4 県の生コン工場への銅スラグ出荷実績（高橋委員）

1．開会

河合委員長より，前年度 3 月に予定していた委員会が委員長自身の負傷入院により急遽延期になってしまったことの報告があり，2021 年度の最初の本会議もコロナ禍でのオンライン会議になったことの説明があった。

2．前回議事録の確認

✓　中川副委員長（資料 1-1）から，2020 年度第 2 回会議の議事に関する説明があり，議事録（案）が承認された。
✓　河合委員長から，議事内容に直接関係の無い人名等の固有名詞については削除して、支部 HP へ掲載するとの説明があった。
✓　國土委員・篠原委員から，仮に CUS コンクリートを使用した構造物が判明した場合，コンサルタント業務としての当該構造物の調査結果は，業務に対する守秘義務の観点から発注者への了解，あるいは発注者からの情報開示が必要との説明があった。

3．話題提供

3.1　河合委員長（資料 1-2-1～1-2-2）

- ✓ 愛媛県で CUS コンクリートを生産する 3 社へのヒアリング結果の報告があった。
- ✓ 3 社ともに古い出荷時期に関するデータは無いとの報告があった。
- ✓ D 社は，出荷リストの提供について，県発注工事が大部分であるためリストが膨大であり，データを整理してみないとリスト提供が可能か否か回答できないとの報告があった。
- ✓ S 社は，民間工事が多く，平成 21 年度からデータが残っている範囲でリスト提供可能との報告であった。
- ✓ N 社は，県発注工事のリスト（資料 1-2-2）の提供があり，その内容の説明があった。さらに日野委員から本リストに中から県土木発注の案件と現地調査の可能性に関する説明があった。

3.2 中川副委員長（資料 1-3-1～1-3-3）

- ✓ 徳島県で CUS コンクリートを生産する A 社へのヒアリング結果の報告があった。
- ✓ CUS コンクリートは，土木分野では県発注の港湾消波ブロック，建築分野では民間の社屋および工場へ供給（資料 1-3-2～1-3-3）されているとの報告があった。
- ✓ A 社の意見として，CUS コンクリートの品質については何も問題無いとの説明があった。
- ✓ CUS コンクリートの運搬・貯蔵・製造管理にかかるコストについて，CUS の比重や粒子形状の特性から，たとえば，ダンプベッセルやバックホウバケット鋼板の摩耗，貯蔵のためのベルトコンベアでの材料運搬時におけるオペレーター配置の必要やベルトの消耗，製造時のバケット摩耗，CUS コンクリート重量の影響による 1 回あたりの製造量の減少やアジテータ車運搬量の減少などの問題があること，その結果として，材料コストが普通コンクリートに比べて 1.5 倍程度になってしまうとの報告があった。
- ✓ CUS コンクリートの製造管理にかかるコスト増について，発注側にも理解されるようになると，CUS コンクリートを製造管理する生コン工場が増えるのでは無いかという A 社からの意見が報告された。

3.3 河合委員長（資料 1-4-1～1-4-3（近藤委員提供資料））

- ✓ 高知県で CUS コンクリートを生産する H 社へのヒアリング結果の報告があった。
- ✓ CUS コンクリートは，2002 年より国交省四国山地防災事務所，市町村，林野庁等で使用されている報告があった。
- ✓ 現地調査については，発注者（構造物管理者）への連絡が必要との報告があった。
- ✓ 市町村の発注先はいの町が多く，過去に研究委員会にも参加されていた方へ連絡すれば現地調査可能との報告があった。
- ✓ 近藤委員が本日欠席のため，ヒアリング内容の詳細については後日再確認するとの報告があった。

3.4 高橋委員（資料 1-5）

- ✓ 四国 4 県の生コン工場への CUS 出荷実績についての報告があった。

- ✓ 愛媛県は合計 12 工場（2020 年は 5 工場），高知県は 1 工場，徳島県は 1 工場，香川県は 0 工場との報告があった。
- ✓ 横山委員から，香川県はこれまで豊島溶融スラグの使用を優先してきたため，今後は CUS の利用も増えてくる可能性があるとの意見があった。
- ✓ 高橋委員から，愛媛県において出荷先工場が減少しているのは，主に南予で取り扱う工場が減ったことの報告があった。

3.5　現地調査の日程・場所の決定と調査項目の内容

- ✓ 河合委員長から，CUS コンクリート生産者（品質管理担当者）に現地調査をする県発注の実構造物を選定する資料とするために県発注関連のリスト資料の提供をお願いしたが，データ量が膨大過ぎて難しいとのヒアリング結果であった。
- ✓ 中川副委員長から，発注者においては，発注した構造物に CUS コンクリートが使用されているのかは把握していない。また生産者においては，出荷した CUS コンクリートが使用されている構造物を把握していない（ただし，ヒアリング相手が品質管理者であり，出荷先を管理している営業等担当者なら詳細情報を提供可能と思われる）。施工者においては，CUS コンクリートであることの認識も無い（CUS コンクリートが特殊では無いことがわかる）中では，普通コンクリートと変わらないのではという意見があった。
- ✓ 日野委員から，前回会議で紹介した県発注の橋梁橋脚については，河川内にあることから 11 月以降渇水期において現地調査が可能となると思われるとの報告があった。また、新居浜市が発注した土木構造物を対象として現地調査可能な構造物を選定できないかとの意見があった。新居浜市の土木工事担当者の情報を河合委員長へ連絡するので，現地調査可能な構造物の選定を進めることとした。
- ✓ 河合委員長から，前回会議で井上委員から報告のあった CUS 有無コンクリートの比較検討のための試験施工構造物の調査が可能であり，9～10 月の現地調査も可能ではとの説明があった。
- ✓ 河合委員長から，秋以降の現地調査日程調整はメール等で実施し，調査実施の前に現地へ行く方法や調査内容および調査方法等の打合せのための会議を実施することの提案があった。
- ✓ 中川副委員長から，コロナ禍の状況下において，さらなる対面でのヒアリングはなかなか難しいので，これまで議論されている具体的な構造物を対象に現地調査計画を進めて，同時に別の調査構造物の探していくことの提案があった。

話題提供時，各話題提供に対する議論および今後の委員会活動についての各委員からの意見や説明について。

- ✓ 河合委員長：本会議で報告のあった各県ヒアリング結果を委員会報告においてどのような報告内容にするかを検討したいとの意見があった。，今後，横山委員と各県のヒア

リング結果から報告書に記載する内容やヒアリング内容の過不足を河合委員長と検討し，國土委員・篠原委員と報告書をまとめていくこととした。

- ✓ 横山委員：CUS コンクリート生産者側では，製造するコンクリートを基本的に県や市町村別に管理していないため，発注先を分けた出荷リストは難しいとの意見があった。
- ✓ 氏家委員：CUS コンクリートの施工について，CUS については細骨材代替として 30%程度までの使用は普通コンクリートと同等であることを以前の JCI 四国支部での研究委員会（委員長：橋本先生）においても報告されているので，その程度の CUS 使用についての施工性の問題は無いものと考えてもいいとの意見があった。
- ✓ 横山委員：徳島県のヒアリング結果の報告にあったように，CUS コンクリートの製造管理については，材料ヤード確保や材料特性に対する特別な管理などの手間がかかることへの同意見があった。

4. その他

- ✓ 河合委員長から，現地調査する構造物や日程等をメールで調整し，具体的に日程が決まってきた段階で事前に調査方法等の打合せをオンライン会議で行うことの説明があった。

以上

2021 年度　JCI 四国　材料分離が生じたコンクリート中の鉄筋腐食性状の評価委員会
第 2 回　議事録（案）

■　日時：2021 年 12 月 20 日（月）14：00～16：30
■　場所：愛媛大学工学部 2 号館 424 会議室
■　出席者：河合委員長，中川副委員長，井上委員，氏家委員，高橋委員，日野委員，藤井委員，横山委員
■　資料
・資料 2-0：第 2 回委員会議事次第
・資料 2-1：2021 年度第 1 回委員会　議事録（案）
・資料 2-2：四国 4 県の生コン工場への FA 出荷状況（中川副委員長）
・資料 2-3：銅スラグを使用したコンクリート構造物の現地調査箇所（案）（河合委員長）
（資料 2-3 については，当日の委員会でのみ閲覧）
・資料 2-4：現地調査するコンクリート構造物の目視点検結果（河合委員長）
・資料 2-5：本研究委員会の報告書（案）（河合委員長・中川副委員長）

1．開会
河合委員長より，11 月 29 日に愛媛県新居浜市で実施されたコンクリート構造物現地調査について，対象構造物の概要と調査参加者へのお礼が述べられた。さらに，本会議において，研究報告書作成の予定や作業分担について議論したい意向が述べられた。

2．前回議事録の確認
✓　中川副委員長（資料 2-1）から，2021 年度第 1 回委員会の議事に関する説明があり，議事録（案）が承認された。

3．話題提供
3.1　中川副委員長（資料 2-2）
✓　四国 4 県における生コン工場向けのフライアッシュ（FA）出荷実績について，過去 10 年間の出荷実績についての説明があった。
✓　徳島県への FA 出荷量が他 3 県よりも多い理由は何かあるのかという質問があった。
✓　香川県での出荷先工場数が 3 工場と他 3 県よりも少ない理由は何かあるのかという質問があった。
✓　横山委員から，銅スラグ細骨材（CUS）および FA に関する生コンクリートへの利用状況について，県内の広い範囲で FA 利用が優先であり，東予においてのみ CUS が追加利用されているという説明があった。
✓　横山委員から，徳島県における FA 利用状況について，砂代替としての FAⅣ種の利用

も出荷量の多さの理由ではないかという意見があった。

- ✓ 上記 FA 出荷状況に関するいくつかの質問については，中川副委員長から再度調査して報告するとの説明があった。

3.2　河合委員長（資料 2-3，資料 2-4）

- ✓ 10 月 27 日に実施された実構造物調査（CUS のみと CUS&FA の比較）について報告された。CUS のみの配合では，開口部などにおいて施工不良が生じやすい印象であった。
- ✓ 柱部材の高さ方向の品質について，シュミットハンマー試験，含水率，透気係数の結果に基づき報告があった。特に，柱上部における反発度の低下傾向が明確であった。また，水掛かりの少ない箇所では，柱部材の上部ほど含水率は低下し，透気係数は大きくなるようであった。
- ✓ 一方，水掛かりのある箇所では，含水率が高い箇所でも透気係数が大きく測定される部位があり，特に柱上部では乾湿による品質低下が懸念されるとの報告があった。
- ✓ 11 月 29 日に愛媛県新居浜市で実施された銅スラグ細骨材（CUS）が使用されたコンクリート構造物に関する調査結果の概要が報告された。
- ✓ 現地調査が実施されたコンクリート構造物について，工事概要，レディーミクストコンクリート配合計画書および各供用の点検調書（資料 2-3，資料 2-4）に関する説明があった。なお，提供元からの要望として，当該資料については，委員会内での閲覧のみに限定することとの説明があった。
- ✓ コンクリート表面の色合いについて，2 層に分けて施工されている橋台の層間の違いや CUS の影響と思われるグレー系の色むらに関する説明があった。
- ✓ 横山委員および日野委員から，橋梁工事の場合に下部工が施工された後，上部工の施工開始までは，相当時間が空いてしまう場合もあるので，下部工が風雨に曝される影響もあるとの説明があった。
- ✓ 生コンクリートが一度に打設される範囲において，高さ方向における比較的上部における表面気泡跡の多さが説明された。
- ✓ 当該構造物への非破壊試験は現段階では実施していないが，今後，可能であれば実施したい意向が説明された。

3.3　河合委員長・中川副委員長（資料 2-5）

- ✓ 河合委員長から，本研究委員会の報告書作成に関して，過去の委員会報告書が参考資料として示され，全体の構成イメージや報告書形式等の説明があった。
- ✓ 中川副委員長から，本研究委員会の報告書（案）（資料 2-5）にしたがって，目次概要，書式，表および図番，フォント等の説明があった。
- ✓ 河合委員長から，目次案に基づいて各項目の執筆担当（案）について説明があり，各委員から了承された。
- ✓ CUS 施工性の項目について，藤井委員から施工性に関する記述と施工および環境条件が表層品質に及ぼす影響を明確化する提案があり，合意された。

- ✓ 日野委員から，構造物関連の固有名詞および各情報に関する報告書への記載については，再度管理者への確認と了承が必要であると指摘があった。河合委員長から，構造物名称はアルファベット表記程度とし，構造物の所在，発注者，施工会社等の具体的な情報は記載しないことが提案された。
- ✓ 河合委員長から，愛媛県における CUS コンクリートの出荷状況調査については，当初複数の生コン会社へ依頼する予定であったが，現状の調査結果のみで追加調査は行わないことの説明があった。
- ✓ 報告書（案）は，2022 年 3 月に実施予定の第 3 回委員会までに各担当者が作成することで合意した。また，執筆内容についての相談は，適宜メール等で進めることとした。

話題提供時，各話題提供に対する議論および今後の委員会活動についての各委員からの意見や説明について。

- ✓ 中川副委員長 : 報告書における現地調査結果において，コンクリート表層品質に関する CUS の影響を記載する場合，長所のみではなく短所も記載することを考慮した場合，可能な限り構造物名称や関係者について記載しない方が良いとの意見があった。
- ✓ 河合委員長 : 現地調査の報告では，実構造物の過去に実施された点検結果を踏まえて，本委員会で実施した目視調査の着眼点や施工と表層品質の関連に触れつつ，記述してほしいとの説明があった。
- ✓ 河合委員長 : 報告書（案）の内容・分担について，質問・要望等あればメールで連絡してほしいとの依頼があった。

4. その他

第 3 回の委員会は，令和 4 年 3 月 28 日（月）14～17 時に開催することとした。

以上

令和３年９月吉日

JCI 四国支部会員　各　位

公益社団法人　日本コンクリート工学会四国支部
支部長　橋本　親典

コンクリートに関する技術情報交換会（ZOOM 会議）開催のご案内

拝啓　時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。

支部主催の行事がほとんど開催されないまま 1 年以上が経過しました。しかしながら、コロナ禍においてオンライン会議という新しい情報発信や交流が可能になりました。同一会場に参加者が集合しなくても、個々のパソコンの画面を通じて、参加者が相互に意見交換ができる世界が来ました。

この度、JCI 本部が用意してくれた ZOOM 会議では、四国支部会員の全員が聴講可能です。つまり、従来の学会活動でできなかった仮想空間において、四国支部会員全員を対象とした講習会や講演会を開催することができるようになりました。

JCI 四国支部としては、この ZOOM 会議のシステムを使って会員相互の情報交換を行える場を共有するという目的の講演会を開催することにしました。この技術情報交換会の運営等に関しては、JCI 四国支部の HP に 9 月 2 日に upload しておりますので、ご覧ください。

本年 2021 年度は、「コンクリートに関する技術情報交換会（ZOOM 会議）」を 2 回開催いたします。奮ってご参加下さいますようご案内申し上げます。

敬具

記

第１回コンクリートに関する技術情報交換会

2021 年 11 月 17 日（水）15:30～17:00

15:30～15:35　支部長挨拶

15:35～16:15　話題提供１　「高知県コンクリート診断士会の現状と課題（仮称）」
（株）CDR コンサルタンツ　原田　隆敏

16:15～16:20　休憩

16:20～17:00　話題提供２　「コンクリート工学における AI の活用について（仮称）」
香川大学　岡﨑　慎一郎

第２回コンクリートに関する技術情報交換会

2022 年 1 月 26 日（水）15:30～17:00

15:30～15:35　支部長挨拶

15:35～16:15　話題提供１　「香川県砕石事業協同組合の社内規格の視える化の取り組み（仮称）」
香川県砕石事業協同組合　吉田　幸稔

16:15～16:20　休憩

16:20～17:00　話題提供２
「香川高専社会基盤メンテナンス教育センターの橋梁点検講習会等の活動紹介（仮称）」
香川高専　林　和彦

参加方法：参加希望の方は、JCI 四国支部事務局　h_nii@zennama.or.jp　に以下の内容を、メールにて連絡してください。参加費は無料です。

１．氏名、２．JCI 会員番号、３．ZOOM 会議のためのメールアドレス

送っていただいたメールに、当日の ZOOM 会議の URL 等をお送りします。

なお、ZOOM 会議の定員が 300 名のため、300 名を超過した場合は、JCI 四国支部会員を優先させていただきます。予めご了承ください。

第14回コンクリート甲子園　総合得点　集計表

令和3年12月11日（土）

No.	チーム名	各部門の得点			得点合計	総合順位	部門順位（3位まで）		
		強度	プレゼンテーション	デザイン			強度	プレゼンテーション	デザイン
1	北海道釧路工業高等学校 土木科	0	20	10	30	10			
2	岡山県立岡山工業高等学校 土木科	31	20	13	64	4			3
3	新潟県立新発田南高等学校 土木工学科	0	16	15	31	8			1
4	（岐阜県）関市立関商工高等学校 建設工学科	40	24	12	76	2	1		
5	北海道札幌工業高等学校 土木科	0	28	9	37	7		2	
6	香川高等専門学校 建設環境工学科	28	28	12	68	3		3	
7	広島県立広島工業高等学校 土木測量部（土木科）	25	12	8	45	6			
8	岡山県立新見高等学校 工業技術科	34	16	7	57	5	3		
9	徳島県立徳島科学技術高等学校 建設技術類環境土木コース	37	30	14	81	1	2	1	2
10	岡山県立津山工業高等学校 土木科	0	24	7	31	8			

２０２１年度収支決算

（単位：円）

項　　目	2021年度予算(a)	2021年度決算(b)	差　異　＊	備　　考
【　収　　入　】				
1.本　部　交　付　金	2,057,840	2,052,460	▲ 5,380	2021年度より支部交付金の算出方法が変更になった
2.コンクリート診断士試験報酬金	180,000	191,600	11,600	229名（前年度比＋44名）
3.コンクリート技士試験報酬金	280,000	298,880	18,880	技士374名　主任198名（前年度比 技士＋10名，主任＋40名）
4.見　学　会　収　入	20,000	0	▲ 20,000	見学会中止
5.講　習　会　収　入	50,000	0	▲ 50,000	開催していない
6.雑　　収　　入	10	18	8	利息18円
7.懇　親　会　収　入	0	0	0	総会中止
合　　計(A)	2,587,850	2,542,958	▲ 44,892	
8.前期繰越収支差額	1,493,747	1,493,747	0	
当期収入合計(B)	4,081,597	4,036,705	▲ 44,892	
【　支　　出　】				
9.会　　議　　費				
1)総会費	0	0	0	総会中止
2)執行委員会費	161,000	11,000	150,000	第9回支部執行委員会(1回)のWeb会議ツール使用料，Web会議2回
3)幹部会費	22,000	0	22,000	Web会議1回（本部のツール使用）
小　　計	183,000	11,000	172,000	
10.事　　業　　費				
1)特 別 講 演 会	0	0	0	総会中止
2)見　　学　　会	120,000	0	120,000	見学会中止
3)講習会・講演会	200,000	0	200,000	コンクリートに関する技術情報交換会（Web会議）2回開催
4)広　　報　　費	50,000	50,000	0	HP維持経費
5)研 究 委 員 会	1,443,000	935,540	507,460	活性化委員会191,540，河合委員会494,000 教育に関する委員会(多度津高校150,000，コンクリート甲子園100,000円)
6)リモート関係調査費	300,000	0	300,000	オンライン講習会(成果報告会)開催していない
小　　計	2,113,000	985,540	1,127,460	
11.管　　理　　費				
1)事務費(消耗品等)	10,000	2,750	7,250	専務理事交代によるゴム印
2)業 務 委 託 費	240,000	240,000	0	
3)旅 費 ・ 交 通 費	15,000	0	15,000	内部監査メール審議
4)手　　数　　料	10,000	3,740	6,260	支払い手数料
小　　計	275,000	246,490	28,510	
12.通　　信　　費	80,000	8,149	71,851	
13.未　払　い　金	0	0	0	
当期支出合計(C)	2,651,000	1,251,179	1,399,821	
14.当期収支差額(A-C)	▲ 63,150	1,291,779	－	
15.手許現金残高(D＝B-C+E)		1,985,526		
16.本 部 へ 預 託 金(E)	0	800,000		支部の持ち金が多いため，本部が管理(2021.07.14預託)
17.次期繰越収支差額(D＋E)	1,430,597	2,785,526	－	

（注）＊ 差異欄：収入項目 b-a，支出項目 a-b

ＪＣＩ四国支部　２０２２年度事業計画(案)

１．支部幹部会

【第１２回】(2022 年度第 1 回)

日　時：2022 年 11 月

場　所：香川県生コンクリート工業組合 2F 会議室（対面式）

議　題：上半期の事業報告と下半期の事業計画確認　等

【第１３回】(2022 年度第 2 回)

日　時：2023 年 1 月中旬

場　所：香川県生コンクリート工業組合 2F 会議室（対面式）

議　題：12 月末までの収支決算の確認，2023 年度事業計画と事業予算の審議　等

２．支部執行委員会

【第１２回】(2022 年度第 1 回)

日　時：2022 年 5 月 10 日（火）15 時～17 時

場　所：香川県生コンクリート工業組合（Web 会議）

議　題：2021 年度事業報告･収支決算報告，2022 年度事業計画･収支予算最終確認　等

【第１３回】(2022 年度第 2 回)

日　時：2023 年 1 月下旬～2 月初旬

（次年度収支予算, 事業計画を 2 月中旬までに本部へ報告しなければならない。）

場　所：香川県生コンクリート工業組合 2F 会議室（対面式）

議　題：12 月末までの収支決算の確認，2023 年度事業計画と事業予算の審議　等

３．支部執行部候補者推薦委員会

【第７回】

日　時：2023 年 1 月中旬（第 13 回支部幹部会と同日開催）

場　所：香川県生コンクリート工業組合 2F 会議室（対面式）

４．内部監査

日　時：2022 年 4 月 9 日（土）11 時～12 時

場　所：香川県生コンクリート工業組合 2F 会議室（対面式）

出席者：橋本支部長，堀井検査役，古田出納管理者，新居

５．支部総会

コロナ禍のため，昨年度に引き続き対面式の総会は開催しない。第 12 回支部執行委員会承認後に 2021 年度活動報告･収支決算および 2022 年度活動計画案･収支予算案等を総会資料として HP へ掲載し活動内容を周知する。

６．研究委員会活動

１）四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会【常設委員会】

委員長：橋本親典（徳島大学）･･･四国支部長担当

幹事長変更：尾嵜先生（多度津高校）⇒ 近藤先生（高知高専）**名簿更新すること。**

２）四国の生コン技術力活性化委員会【第５期】【継続，2020 年～】

委員長：島弘（高知工科大学）

第 10 回支部執行委員会（2021.08.30）で活動期間の延長（3 年目）が承認された。

３）四国における新設コンクリート構造物の品質確保の実践に関する研究委員会（第 2 期目）

委員長（予定）：岡﨑慎一郎（香川大学）

2022 年度の新規委員会とする。

委員長確認。委員公募，活動計画等を HP へ掲載すること。

７．講演会･講習会など

１）特別講演会

開催しない方針。

２）講習会

・四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会活動報告

第 14 回コンクリート甲子園

モデル活動校：多度津高校

日　時：2022 年 5 月 10 日（火）15 時～17 時

場　所：香川県生コンクリート工業組合（Web 会議）

発表者：尾嵜 秀典（多度津高校）

公　表：報告後，発表用の ppt スライドを支部総会資料と併せてＨＰへアップする。

・「四国における新設コンクリート構造物の品質確保の実践に関する研究委員会」の成果報告会

日　時：未定（2021 年度未実施）

場　所：オンデマンド型のオンライン講習会

主　催：JCI 四国支部

林委員長に確認

・「材料分離が生じたコンクリート中の鉄筋腐食性状の評価委員会」の成果報告会

日　時：未定

場　所：未定

主　催：JCI 四国支部

河合委員長に確認

・「四国の生コン技術力活性化委員会【第 5 期】」の成果報告会および活動 10 周年記念講演会

日　時：2023 年 3 月

場　所：未定

主　催：JCI 四国支部

古田委員会幹事長より報告

・生コンセミナーｉｎ香川（2021 年度から延期）

日　時：2022 年 7 月～8 月

場　所：未定

主　催：香川県生コンクリート工業組合

共　催：全国生コンクリート工業組合連合会四国地区本部，JCI 四国支部

古田幹事より報告

・生コンセミナーｉｎ高知

日　時：未定

場　所：未定

主　催：高知県生コンクリート工業組合

共　催：全国生コンクリート工業組合連合会四国地区本部，JCI 四国支部

・コンクリート技術研修会

日　時：未定

場　所：未定

主　催：高知県コンクリート診断士会

後　援：JCI 四国支部

3）コンクリートに関する技術情報交換会（Web 会議）（p24）

橋本支部長より報告

・第 3 回

日　時：2022 年 6 月 21 日（火）15 時 30 分～17 時

話題１：目視情報を活用した RC 構造物の剥落予測手法（仮称）

報告者：角野 拓真（阿南高専）

話題２：清水建設の最新の土木施工におけるコンクリート技術の紹介（仮称）

報告者：藤井 禎（清水建設㈱）

参加者：50 名程度を期待!!

・第 4 回

日　時：2022 年 11 月 9 日（水）15 時 30 分～17 時

話題１：シリンダーを用いた簡易透気試験装置の紹介（仮称）

報告者：渡邊 健（徳島大学）

話題２：ひび割れ抑制を目的とした膨張コンクリートの選定と効果について

報告者：下村 昭司（大旺新洋㈱）

参加者：50 名程度を期待!!

4）その他

８．見学会

日　時：2022 年 10～11 月

場　所：未定（コロナ感染状況により 8 月頃判断）

９．本部関連行事

１）コンクリート診断士試験

日　時：2022 年 7 月 24 日（日）

場　所：高松国際ホテル（高松市木太町 2191-1）

統括責任者：松島学（香川大学）　　事務責任者：古田満広（香川県生コン組合）

監督者：1 名（昨年：1 名）

監督補助者：7 名（昨年：香川大学 7 名）

事務補助者：香川県生コン組合 2 名

２）コンクリート技士･主任技士試験

日　時：2022 年 11 月 27 日（日）

場　所：香川大学創造工学部

統括責任者：吉田秀典（香川大学）　　事務責任者：古田満広（香川県生コン組合）

監督者：9 名（昨年：香川大学 9 名）

監督補助者：26 名（昨年：香川大学 26 名）

事務補助者：香川県生コン組合 1 名

10．ホームページ運営

JCI 四国支部のホームページを充実する。

11．会員増強

JCI 会員の増強を図る。

以上

令和４年４月吉日

JCI 四国支部会員 各位

公益社団法人　日本コンクリート工学会四国支部
支部長　橋本 親典

2022 年度コンクリートに関する技術情報交換会（ZOOM 会議）開催のご案内

拝啓

時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。

JCI 四国支部としては、ＺＯＯＭ会議のシステムを使って会員相互の情報交換を行える場を共有するという目的のオンライン講演会を開催することになり、2021 年度は下期に 2 回開催しました。

つきましては、2022 年度の「コンクリートに関する技術情報交換会（ＺＯＯＭ会議)」のプログラムができましたので、お知らせいたします。

奮ってご参加下さいますようご案内申し上げます。

敬具

記

第３回コンクリートに関する技術情報交換会

2022 年 6 月 21 日（火） 15:30 ～17:00

15:30～15:35 支部長挨拶

15:35～16:15 話題提供１ 「目視情報を活用した RC 構造物の剥落予測手法（仮称)」
阿南工業高等専門学校 創造技術工学科・建設コース　角野　拓真

16:15～16:20 休憩

16:20～17:00 話題提供２「清水建設の最新の土木施工におけるコンクリート技術の紹介(仮称)」
清水建設(株)　藤井　禎

第４回コンクリートに関する技術情報交換会

2022 年 11 月 9 日（水） 15:30～17:00

15:30～15:35 支部長挨拶

15:35～16:15 話題提供１ 「シリンダーを用いた簡易透気試験装置の紹介（仮称） 」
徳島大学大学院　渡邊　健

16:15～16:20 休憩

16:20～17:00 話題提供２「ひび割れ抑制を目的とした膨張コンクリートの選定と効果について（仮称)」
大旺新洋(株)　下村 昭司

参加方法：

参加希望の方は、JCI 四国支部事務局 h_nii@zennama.or.jp に以下の内容を、メール にて連絡してください。 参加費は無料です。**ただし、JCI 会員でない方は、JCI に個人会員として入会していただく必要があります。**

メール件名：JCI 四国支部 コンクリートに関する技術情報交換会 参加申し込み

記載項目：１．氏名、２．JCI 会員番号、３．希望する回数（第３回／第４回)、４．ＺＯＯＭ会議のためのメールアドレス

送っていただいたメールに、当日のＺＯＯＭ会議のＵＲＬを開催日近くなりましたら、お送りします。

２０２２年度収支予算（案）

（単位：円）

項　　目	2022年度予算	2021年度決算	差　異　＊	備　　考
【　収　　入　】				
1.本　部　交　付　金	1,802,460	2,052,460	250,000	本部試算(2021年度より支部交付金の算出方法が変更になった)
2.コンクリート診断士試験報酬金	190,000	191,600	1,600	前年度実績とほぼ同額
3.コンクリート技士試験報酬金	300,000	298,880	▲ 1,120	前年度実績とほぼ同額
4.見　学　会　収　入	20,000	0	▲ 20,000	バス代（@1,000円×20名）
5.講　習　会　収　入	50,000	0	▲ 50,000	林委員会･活性化委員会成果報告書販売（@1,000円×50冊）
6.雑　　収　　入	10	18	8	
7.懇　親　会　収　入	0	0	0	総会開催しない方針
合　　計(A)	2,362,470	2,542,958	180,488	
8.前期繰越収支差額	2,785,526	1,493,747	▲ 1,291,779	
当期収入合計(B)	5,147,996	4,036,705	▲ 1,111,291	
【　支　　出　】				
9.会　　議　　費				
1)総会費	0	0	0	総会開催しない方針
2)執行委員会費	150,000	11,000	139,000	Web会議1回，対面式1回
3)幹部会費	0	0	0	Web会議2回
小　　計	150,000	11,000	139,000	
10.事　　業　　費				
1)特 別 講 演 会	0	0	0	総会開催しない方針
2)見　　学　　会	120,000	0	120,000	バス使用。参加者障害保険料
3)講習会・講演会	350,000	0	350,000	生コンセミナーｉｎ香川共催費50,000円，　生コンセミナーｉｎ高知共催費50,000円，　活性化委員会成果報告会100,000円，　河合委員会成果報告会100,000円，　林委員会成果報告書作成費50,000円
4)広　　報　　費	50,000	50,000	0	HP維持経費
5)研 究 委 員 会	967,460	935,540	31,920	活性化委員会407,460円(250,000＋前年度繰越157,460) 新規委員会250,000円，教育に関する委員会310,000円
6)リモート関係調査費	0	0	0	予算化しない
小　　計	1,487,460	985,540	501,920	
11.管　　理　　費				
1)事務費(消耗品等)	10,000	2,750	7,250	封筒作製等の予備費
2)業 務 委 託 費	240,000	240,000	0	20,000円×12か月
3)旅 費 ・ 交 通 費	15,000	0	15,000	支部長，検査役の会計監査時の旅費
4)手　　数　　料	10,000	3,740	6,260	支払い手数料
小　　計	275,000	246,490	28,510	
12.通　　信　　費	50,000	8,149	41,851	前年度実績より大幅増(成果報告会等の開催案内)
13.未　払　い　金	0	0	0	
当期支出合計(C)	1,962,460	1,251,179	711,281	
14.当期収支差額(A-C)	400,010	1,291,779	－	
15.手許現金残高(D＝B-C+E)	2,385,536	1,985,526		
16.本 部 へ 預 託 金(E)	800,000	800,000		支部の持ち金が多いため，本部が管理(2021.07.14預託)
17.次期繰越収支差額(D＋E)	3,185,536	2,785,526	－	

(注) ＊ 差異欄：収入項目 b-a，支出項目 a-b

2022 年 4 月 11 日

公益社団法人 日本コンクリート工学会
会 長　二羽　淳一郎　　殿

公益社団法人 日本コンクリート工学会
四国支部検査役　堀 井　克 章　㊞

日本コンクリート工学会四国支部 内部監査報告書

内部監査結果を以下のとおり報告します。

１．実施した監査の概要

（１）監査実施日　2022 年 4 月 9 日（土）10 時 40 分～11 時 30 分
（２）監査実施場所　香川県生コンクリート工業組合（四国支部事務局）
　　香川県高松市茜町 28 番 40 号
（３）監査の対象　公益社団法人 日本コンクリート工学会四国支部
（４）監査担当者　四国支部検査役 堀井 克章（立会人 支部長 橋本 親典）
（５）監査の目的
- 監査対象期間　2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日
- 会計監査
  2021 年度収支決算の適切性確認
- 業務監査
  2021 年度に実施した業務活動の適切性確認

（６）監査方法

2021 年 4 月～2022 年 3 月まで 1 か月に 1 回の頻度で本部へ報告する月次収支報告書，元帳･振替伝票，通帳のコピーを検査役がその都度確認した。また，2022 年 3 月末の収支決算書，残高証明書，普通預金通帳および 2021 年度四国支部事業報告書を確認した。

２．実施した監査の結果

（１）会計監査

収支決算が適切であることを以下のとおり確認した。
- 3 月末現在の手元現金残高は 0 円である。
- 3 月末現在の通帳残高は，1,985,526 円である。
- 3 月末現在において仮払いおよび未払いはない。
- 預金の出入記録と証憑が整合している。

・ 2021 年 10 月 4 日に購入したデジタルカメラ（税込み 103,600 円）は，固定資産として適切に管理されている。
・ 銀行印と通帳が適切に管理されている。

（2）業務監査

2021 年度に実施した業務活動が適切であることを以下のとおり確認した。

・ 支部幹部会が 1 回開催された。なお，審議内容については確認済。
・ 支部執行委員会が 3 回（別にメール審議 1 回）開催された。なお，審議内容については確認済。
・ 支部執行部候補者推薦委員会が 1 回開催された。
・ 2021 年度内部監査が実施された（書面監査）。
・ 2021 年度支部総会はコロナ禍により中止された。
・ 3 件の研究委員会が活動した。
・ コンクリートに関する技術情報交換会（Web 会議）を，試行を含め 3 回開催した。
・ 第 14 回コンクリート甲子園を後援した。
・ コンクリート診断士試験を支援した。
・ コンクリート技士･主任技士試験を支援した。
・ 支部 HP を随時更新した。
・ 香川県生コンクリート工業組合への業務委託については確認済。
・ 支部長印が適切に保管されている。

（3）総合的意見

2021 年度当初の予算案および業務活動がコロナ禍により一部変更されたが，2021 年度収支計算書の記載事項および業務活動内容は適切であると評価する。

（4）指摘事項

特になし。

（5）改善提案事項

特になし。

以上

令和4年度 JCI四国支部執行部名簿 （2022.06.01）

	役職	氏 名	所属1	所属2	担 当
1	支部長	橋本　親典	徳島大学大学院	理工学研究部	
2	副支部長	上田　隆雄	徳島大学大学院	理工学研究部	
3	支部幹事	氏家　勲	愛媛大学大学院	理工学研究部	
4	支部幹事	大内　雅博	高知工科大学	工学部社会システム工学科	
5	支部幹事	岡崎慎一郎	香川大学	創造工学部	
6	支部幹事	木下　功	国土交通省四国地方整備局	四国技術事務所	【見学会担当】
7	支部幹事	冨田　雄一	西日本高速道路(株)四国支社	建設・改築事業部技術計画課	【見学会担当】
8	支部幹事	林　和彦	香川高等専門学校	建設環境工学科	
9	支部幹事	藤井　禎	(一社)日本建設業連合会	四国支部	
10	支部幹事	古田　満広	香川県生コンクリート工業組合		【講演会・講習会担当】
11	支部幹事	横井　克則	高知工業高等専門学校	ソーシャルデザイン工学科	【ホームページ担当】
12	支部幹事	渡辺　健	徳島大学大学院	理工学研究部	【講演会・講習会担当】
13	支部執行委員	朝倉　光司	(株)四電技術コンサルタント	土木事業部	
14	支部執行委員	小川　浄	四国電力(株)	土木建築部	
15	支部執行委員	川島　恭志	住友大阪セメント㈱　四国支店 （四国地区セメント技術委員会）		
16	支部執行委員	河合　慶有	愛媛大学大学院	理工学研究部	
17	支部執行委員	熊沢　敬輔	(有)熊沢構造設計事務所		
18	支部執行委員	近藤　拓也	高知工業高等専門学校	ソーシャルデザイン工学科	
19	支部執行委員	鈴木　卓	高知工科大学	工学部社会システム工学科	
20	支部執行委員	中川　裕之	(株)四国総合研究所	土木技術部	
21	支部執行委員	中村　康一	中村建築構造設計		
22	支部執行委員	松島　学	香川大学	創造工学部創造工学科	
23	支部執行委員	松並　徹	コンクリート用化学混和剤協会	中四国ブロック	
24	支部執行委員	山中　伯	全国生コンクリート工業組合連合会四国地区本部 （高知県生コンクリート工業組合）		
25	支部執行委員	横山　卓哉	全国コンクリート製品協会	四国支部	
26	支部執行委員	吉田　秀典	香川大学	創造工学部創造工学科	
27	支部執行委員	吉田　幸稔	(一社) 日本砕石協会	四国地方本部	
28	支部執行委員	米澤　巧	(有)米沢建築設計事務所		
29	検査役	堀井　克章	阿南工業高等専門学校	創造技術工学科建設コース	
30	本部理事	松島　学	香川大学	創造工学部創造工学科	
31	顧問	河野　清	徳島大学名誉教授		
32	顧問	岡村　甫	高知工科大学理事長		
33	顧問	水口　裕之	徳島大学名誉教授		
34	顧問	天羽　和夫	阿南工業高等専門学校　名誉教授		